

氏名	山本 陽一
学位の種類	博士 (生涯発達科学)
学位記番号	博甲第 8649 号
学位授与年月	平成 30年 3月 23日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	人間総合科学研究科

学位論文題目 ボランティア活動と募金を規定する内的要因

主査	筑波大学教授	文学博士	松井 豊
副査	筑波大学准教授	博士 (心理学)	藤 桂
副査	筑波大学准教授	博士 (心理学)	飯田 順子
副査	筑波大学教授	博士 (心理学)	相川 充

## 論文の内容の要旨

山本 陽一氏の博士學位論文は、ボランティア活動と募金への参加意欲を促進する内的要因について検討したものである。その要旨は以下の通りである。

### (目的)

著者は、ボランティア活動と募金に関する先行研究を概観して、これらの研究には以下の課題があると述べている。第一に、ボランティア活動と募金の動機については、他者志向的側面と自己志向的側面と要請的側面の3側面から検討できる可能性が考えられること、第二に、援助に関わる規範意識には協力行動研究で実証されていた協力をしない相手への罰意識が含まれる可能性が考えられること、第三に、ボランティア活動と募金を共通して促進する内的要因が存在する可能性が考えられること、の3点である。著者は、以上の課題を踏まえ、ボランティア動機と募金動機の内容および援助規範意識の内容について検討し、これらの要因がボランティア活動と募金への参加意欲に及ぼす影響について検討している。

### (方法)

研究1では、これまで未検討であった中高生のボランティア動機の内容を、感想文の内容分析により検討している。

研究2では、中学生と高校生のボランティア動機の内容と、ボランティア活動意欲を規定する要因について質問紙法により検討している。

研究3では、高校生を対象に、援助規範意識がボランティア活動意欲に及ぼす影響について質問紙法により検討している。

研究4では、大学生を対象に、ボランティア動機および援助規範意識の内容と、ボランティア活動意欲を規定する要因について質問紙法により検討している。

研究5では、成人を対象に、災害被災者への募金動機の内容と、募金意欲を規定する要因について質問紙法により検討している。

研究6では、大学生を対象に、研究4で作成した援助規範意識尺度の確認と、募金意欲を規定する要因について質問紙法により検討している。

研究 7 では、成人を対象に、ボランティア動機、募金動機および援助規範意識の内容と、ボランティア活動と募金への参加意欲を規定する要因について質問紙法により検討している。

(結果)

研究 1 では、中高生のボランティア動機は自己志向動機、他者志向動機、興味関心動機、外発性動機の 4 側面に分類され、自己志向動機と興味関心動機は自己志向的側面に分類されると考えられた。

研究 2 では、中高生のボランティア動機は、自己志向動機、他者志向動機、要請動機の 3 因子に分類され、共感的関心と他者志向動機がボランティア活動意欲を高めることを明らかにしている。

研究 3 では、共感的関心と社会的責任規範が高校生のボランティア活動意欲を高めることを明らかにしている。

研究 4 では、罰意識を加えた援助規範意識尺度を新たに作成し、因子分析では、間接罰、社会的責任、互惠、非関与の 4 因子構造であることを明らかにしている。また、社会的責任がボランティア活動意欲を高め、間接罰がボランティア活動意欲を低下させることを明らかにしている。さらに、大学生のボランティア動機は、自己志向動機、他者志向動機、要請動機の 3 因子に分類され、共感的関心と自己志向動機がボランティア活動意欲を高めることを明らかにしている。

研究 5 では、災害被災者への募金動機は援助責任動機とつきあい動機の 2 因子に分類され、援助責任動機が災害被災者への募金意欲を高めることを明らかにしている。

研究 6 では、攻撃性や公正世界信念の既存尺度との関連を検討することによって、研究 4 で作成した援助規範意識の併存的妥当性を実証するとともに、社会的責任規範が大学生の募金意欲を高めることを明らかにしている。

研究 7 では、成人のボランティア活動意欲が共感的関心と自己志向動機によって高まり、成人の募金意欲が、他者志向動機と共感的関心によって高まることを明らかにしている。

(考察)

以上の実証的検討から、著者は、ボランティア動機と募金動機は 3 側面に分類できることと、援助規範意識には協力しない相手への罰意識が含まれることを主張するとともに、ボランティア活動と募金を促進する共通要因を用いて、ボランティア活動と募金の心理プロセスモデルを提唱している。同モデルでは、共感的関心と社会的責任規範といった特性要因が、ボランティア活動と募金への参加意欲を高め、ボランティア活動経験や募金経験を肯定的に評価した場合には活動の継続意欲が高まると考察している。最後に、本論文で提唱したモデルの理論的位置付けや、今後の課題、社会的含意について述べている。

## 審査の結果の要旨

(批評)

本論文は、ボランティア活動と募金を促進する要因について幅広い年代を対象に検討していた。また、援助規範意識の研究を協力行動の研究と関連づけて検討することにより、オリジナリティのある知見をもたらしていると評価された。

平成 30 年 1 月 19 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。よって、著者は博士（生涯発達科学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。